

未来はどうか誰も知らない

そばで話す安田と北里先輩の会話の中に
「八幡町から乗る女の子」と言う言葉が出てきた。

先輩の西野が教えてくれた人だ。

その人と、藤岡の妹だけ、僕には通じた。

お藤の妹もかわいい。

中学一年のおちびさんだ。

一度、お藤の妹と一緒に電車になって

ああ、この子が妹かと眺めていると

電車がどンドン漕んできて、満員になり

茶色の制服の小さいその子は、

二つの紺色の制服の背中の間で

サンドウィッチ攻めに合い

顔をしかめていた。

「北里先輩の女の友だちはどうですか？」

「北里先輩へのラブレターを見せてください。」

「デイトしましたか？ふられた？ふった？」

などと、北里先輩に興味深く聞いたら

じゅわじゅわと話してくれた。

北里先輩の目がキラキラと輝いて見えた。

僕が今これから書きたい事は、その時北里先輩が、
誇らしげに話した女性論から、たまたま、連想したもので、
その時、僕等が話していた女性一般論とは、そう関係はない。

自然と出てきたので、その考えについて書きたい。